

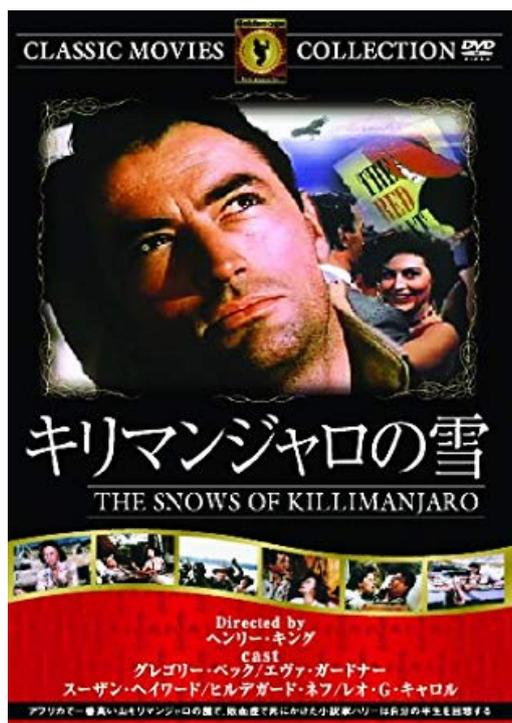
2019.11.28

vol.81

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品 『キリマンジャロの雪』



11月28日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

アフリカの最高峰キリマンジャロの麓に、妻ヘレンを連れて狩猟に来ていた小説家ハリー・ストリートは、脚にうけた傷が壊疽になり、明日をも知れぬ命になった。瀕死の床でヘレンの看護をうけつつ、ハリーは自分が今まで歩んで来た波乱の人生を思い出していった。

監督：ヘンリー・キング

原作：アーネスト・ヘミングウェイ

出演：グレゴリー・ペック、エヴァ・ガードナー
スーザン・ハイワード

製作：1952年 アメリカ モノクロ 114分

『キリマンジャロの雪』	ヘミングウェイ／著	角川書店	933.7
『河出世界文学全集 24』誰がために鐘は鳴る / キリマンジャロの雪 / 他	ヘミングウェイ／著	河出書房新社	908
『PAPA&CAPA』ヘミングウェイとキャパの17年	山口 淳／著	阪急コミュニケーションズ	930.278
『ヘミングウェイの酒』	オキ シロー／著	河出書房新社	930.278
『ヘミングウェイの源流を求めて』	高見 浩／著	飛鳥新社	930.278
『ヘミングウェイ・アドベンチャー』	マイケル・ペイリン／著	産業編集センター	930.278
『アーネスト・ヘミングウェイ 写真集』	クラウディオ・イスキエルド・フンシア／著	海風書房	930.278
『ヘミングウェイ』ヒロインたちの肖像	日下 洋右／著	彩流社	930.278
『ヘミングウェイ』	島村 法夫／著	勉誠出版	930.278
『20世紀のグレートスター 100& 外国映画の代表作 250』	スクリーングラフィックス	近代映画社	778.28
『外国映画男優』	池田 敏／〔ほか〕	共同通信社	778.28

コラム『キリマンジャロの雪』

ヘミングウェイヒロインたちの競演 K.M.

ヘミングウェイがこの映画の原作を書いたのは1936年。ヘンリー・キング監督による映画化は、16年後の1952年。ほぼ同時代に書かれた『武器よさらば』と『誰がために鐘は鳴る』の映画化はそれぞれ3年後、2年後です。それだけ、『キリマンジャロの』の映画化は難しかったのでしょう。

原作は、アフリカで狩猟をしていた小説家が予期せず脚の壊疽で瀕死の状態になり、死の間際に見た夢の中で大空を飛行し、キリマンジャロの頂上を見下ろすと、そこには凍りついた一頭の豹が横たわっていたというストーリーを、小説家の会話と内的独白をつづった短編ですが、内容が極めて内面的かつ短く、ハリウッドでの映画化は困難だったと思われます。ヘンリー・キング監督は、原作の会話部分を現在進行形シーン、内的独白の部分を回想シーンとし、回想シーンに様々なヘミングウェイ的エピソードを追加・再構成して、当時のハリウッドのビッグ・スターであるグレゴリー・ペック、エヴァ・ガードナー、スーザン・ヘイワードと、ドイツ映画の大スターであるヒルデガード・ネフが競演するメロドラマ大作に仕立て上げ、映画は大ヒットしました。

私のこの作品の第一印象は、特に重厚な人間ドラマが展開される訳でもなく、ドラマチックな展開が続く訳でもなく、淡々と主人公の過去と現在がカットバックで交錯しているだけなのに、不思議な重みがある作品だなという感じでした。しかし、すーっと忘れ去ることができず、原作を読み返したり何度もDVDを見直したり、あまり予備知識のなかったヘミングウェイの年譜を調べたりと、しばしこの作品の主人公とヘミングウェイ自身をだぶらせる見方を楽しみました。

映画的に一番引き込まれたシーンは、ペックとガードナーとの出会いのシーンです。ベニー・カーターのメローなアルト・サクスが流れるパリの酒場の片隅で、ペックはグレーのツイードのジャケット、ガードナーは赤いドレスでのしゃれた誘いの会話。ペックが1本のマッチを擦って、自分とガードナーとがそれぞれ啜ったタバコに同時に火を点けるエロティックな隠

喩！このタバコを使った隠喩シーンを、ヘンリー・キング監督はよほど気に入っていたようで、作品中3回も反復されます。初めの2回はガードナーと、3回目はヘイワードと。記憶に残ると思います。

それからもう一つとても興味深かったのは、原作でも映画でも冒頭に提示される象徴的なエピグラムである『キリマンジャロの豹』の、この作品への取りこみ方です。ヘンリー・キング監督は、原作には全く存在しない「主人公の伯父ビル」という人物を登場させて、遺言として『キリマンジャロの豹』のメモを主人公に託すという場面を作り、この一見メロドラマ作品に、ヘミングウェイ文学的香りを加えるという工夫をしています。ちなみに、伯父ビルがこのメモを挟んでヘンリーに渡した本の題名は『ルーアンへの道』です。著者名は、主人公の名前「ハリー・ストリート」となっていました。ルーアンはフランス西部のノルマンディー地方の町で、あのジャンヌ・ダルクの殉教の地です。この本が一瞬クローズアップされるカットは、ヘンリー・キング監督にとっては極めて重要な部分ではなかったかと思います。

ヘミングウェイは、この映画公開の9年後の、ノーベル文学賞授与の4年後の1961年に、幼少時から慣れ親しんだ猟銃で自らの頭をぶち抜き、悲劇的な最後を遂げます。『キリマンジャロの豹』と『ルーアンへの道』は、この最後を暗示していたように思えてなりません。蛇足ながら、この作品で重要な役割のビル伯父を演じたレオ・G・キャロルは、第4回と第33回の「シネマ・ド・リぶら」で上映した『嵐が丘』で、ヒースクリフの館の下男を演じていました。



10/17 『終着駅』の感想

- ・恋は烈しくもあり、脆いものですね。理性を失うと「失樂園」です。私共夫婦 46 年目ですが、一人の人を信じ、愛し、続けることの尊さをあらためて教えられました。
- ・美男子と美女の悲恋のお話なのに、少しこっけいでおもしろかった。始まりから終わりまで駅が舞台。たくさんの人たちの人生が詰まったよい映画でした。
- ・1953 年といえば、日本の敗戦後、たった 8 年しか経っていないのに、イタリアではあの立派な駅舎にびっくり！ 署長の粋なはからいに感動。あんな対処は日本の警察では考えられないこと。日伊の民主主義の違いに刮目させられた。
- ・駅に集まるたくさんの人々を、細かく映像化しているところが、すごいと思いました。
- ・列車の発車までの短い時間にいろいろあったが、よかった、よかった。彼女は聡明な女性です。
- ・55 年前にタイムスリップ。岡崎のタカラ劇場で見て、名古屋や大阪の映画館で、何度も何度も見ました。モノクロがとてもよい。モンゴメリー・クリフトの好演は、エリザベス・テーラーとの『陽の当たる場所』の？？があっただけに、とてもよかったです。
- ・私の中学 2 年生の時の作品（1953 年）。会場に来るまでの車の中で、20 才頃に鑑賞した記憶を辿りましたが、ストーリーはほとんど忘れていました。ただ一つ、男女の出会いと別れの映画だったことを思い出しました。あれから 60 年の歳月が経過しておりますが、スバラシイ映画でした。アリガトウ！
- ・テレビで見た時と、時を重ねると、美しい物も受けかたが変わるものですね。モノクロはステキ！
- ・とてもよかったです。1953 年の映画と聞きましたが、

素敵なロマンス映画でした。ありがとう。

- ・恋に恋していた若い時なら感動したでしょうね。年を取るとさめてしまってダメです。
- ・メロドラマ？ 未練たらたら何だか情けない男女のドラマでした。ジェニファー・ジョーンズはモノクロでもきれいな女優さんですね。
- ・いつもよりお客さんが多くてよかったです。（18：30 の部）
- ・『めぐり逢い』デボラ・カー&ケーリー・グラントをリクエストします。

P 駐車場ののご案内

りぶら東駐車場 2 をご利用下さい



注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

サロン・ド・シネマについて

ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリングループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。



第 82 回上映会のご案内



ビューティフルメモリー

字幕上映

MARILYN HOTCHKISS BALLROOM DANCING & CHARM SCHOOL



12月19日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

ロバート・カーライルとマリサ・トメイ共演による恋愛ドラマ。妻を亡くしたパン職人のフランクは、ある日、自動車事故で瀕死の男・スティーブに遭遇。フランクは彼が初恋の女性を訪ねる途中だったことを知り、代わりに彼女に会いに行くことを約束する。

監督：ランドール・ミラー

音楽：マーク・アドラー

出演：ロバート・カーライル、マリサ・トメイ
ジョン・グッドマン

製作：2005年 アメリカ カラー 103分



2020年1月～3月ホール改修工事のため、
映画の上映会はございません。

2020年度の上映のご案内

第83回	4月16日(木)	『舞踏会の手帳』
第84回	5月21日(木)	『生きる歓び』
第85回	6月25日(木)	『マイライフ アズ・ア・ドッグ』
第86回	8月20日(木)	上映作品は未定
第87回	9月17日(木)	上映作品は未定
第88回	10月15日(木)	上映作品は未定

上映前 BGM のタイトル

タラのテーマ (風と共に去りぬ)
黄色いリボン
第三の男
雨に唄えば
愛のロマンス (禁じられた遊び)
ジェルソミナ (道)
エデンの東
ケ・セラ・セラ (知りすぎていた男)
ボギー大佐 (戦場にかける橋)
荒野の七人
太陽がいっぱい
トウナイト (ウエストサイドストーリー)
ムーンリバー (ティファニーで朝食を)

上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。